

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成31年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
31-2	マルチスケールな交通連携を想定した拠点配置と交通マネジメントについての技術研究開発	東京大学 講師 日下部 貴彦	C
<p><研究の概要></p> <p>本研究では、ETC2.0 やカメラなどのセンシング技術を活用し、次世代交通システムを想定した交通結節点の配置、機能分担等の拠点機能検討のための方法論構築を目的とする。これにより、交通結節点評価方法及び、都市間交通機能、地域交通機能、防災機能などを発揮するための交通マネジメントの方法論を確立する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>交通結節点評価方法と交通結節点周辺での交通マネジメント方法論の確立に向けて、様々な観点で取り組んでいるが、個別研究項目の内容やそれらの関連性、さらには研究期間全体を通じての研究成果目標が明確でなく、今後の研究の見通しも明確でない。このことから、研究計画を修正の上、推進することが妥当であると評価する。</p> <p><修正内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個別研究項目の内容やそれらの関連性、さらには研究期間全体を通じての研究成果目標を明確にすること。 2. 必要ならば、研究代表者が得意とするテーマを中心に研究全体の見通しをクリアにし、また研究内容を絞った研究計画とすること。例えば、交通状態の異常検出は、他の研究者も取り組んでいるため、研究対象から除外し、平常時に限定した研究計画とすることも検討すること。 3. 外注の割合が大きすぎるので再考すること。 4. 国際ジャーナル掲載を必須目標とすること。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第39回新道路技術会議において審議したものである。